

登録コード	EKD05900	開講年度	2026				
授業科目	高度実践研究とリフレクションIV					担当教員	谷塚 光典 他
英文授業名	Advanced Educational Practical Research and Reflection IV					副担当	谷内 祐樹
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	2年生
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力					⇔	・教育的活動における見方・考え方や自らの教育実践の捉え方を、他者との語り合いを通して、異なる観点からのふりかえりを行うことを通して更新することができる。
(2)授業の概要	本授業では、原則として担当教員との個別指導により、実習ポートフォリオ、フィールドポートフォリオ、カンファレンス資料等の授業資料、講義ノート・講義資料を参考に省察ポートフォリオを作成し、その考察により課題追究にあたる。 担当教員が小学校・中学校での実務経験を活かして講義を行います。						
(3)授業計画	第1回：課題の追究(1)－実践クラス・実践校の実態把握・分析－ 第2回：課題の追究(2)－実践クラス・実践校における実践計画・長期目標・短期目標の修正－ 第3回：課題の追究(3)－「学校・地域活性化チーム演習」の内容に基づく実践の振り返り－ 第4回：課題の追究(4)－各授業の内容に基づく実践の振り返り－ 第5回：課題の追究(5)－文献等に基づく実践の振り返り－ 第6回：課題の追究(6)－実践クラス・実践校関係者の意見聴取に基づく振り返り－ 第7回：課題の追究(7)－実践の評価－ 第8回：課題の追究(8)－実践結果のまとめ－ 第9回：課題の追究(9)－実践結果に対する考察－ 第10回：課題の追究(10)－課題追究の振り返り－ 第11回：課題の追究(11)－課題追究の考察－ 第12回：課題の追究(12)－課題追究の意義－ 第13回：課題の追究(13)－課題追究の限界と課題－ 第14回：課題の追究(14)－課題追究の成果発表に向けて－ 最終報告資料 ※受講者の実践研究領域や興味関心等に応じて内容や計画を変更することがある。 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）						
(4)成績評価の方法	・省察ポートフォリオの作成状況:50% ・最終報告資料：50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(5)履修上の注意	・授業は、主担当教員・副担当教員と日程設定をして行う。 ・授業評価アンケートを実施する場合にはご協力をお願いします。 ・教育実習等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず十分に前もって相談してください。事後の対応には応じられない場合があります。（学部授業を科目等履修する場合には、教職大学院の授業が優先されます）						
(6)質問,相談への対応および連絡先	担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、開設授業科目一覧掲載の「担当教員のオフィスアワー」を参考にすること。						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：実践による変化を把握・分析するとともに、授業やカンファレンスの成果と実習の往還に基づいて省察を深め、課題探究の成果と課題をまとめている。 「かなり上である」：実践による変化を把握するとともに、授業の成果、カンファレンスの成果、実習ポートフォリオを関連させながら省察し、課題探究の成果と課題をまとめている。 「やや上にある」：実践による変化を把握するとともに、授業の成果、若しくはカンファレンスの成果、若しくは実習ポートフォリオや文献に基づき課題探究の成果と課題をまとめている。 「水準にある」：何らかの省察を行い、課題探究の成果と課題をまとめている。						
(8)事前事後学習の内容について	・授業にあたっては、各授業における学習内容が自らの課題とどのように関連するかをまとめておくこと。 ・課題に関連する文献や情報を収集しておくこと。 ・この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。						